

## 20周年記念フォーラムによせて

山のトイレを考える会 代表 小枝 正人

北海道の山を愛する皆さま。

新型コロナウイルス感染拡大の大きな影響を受けたこの1年間、いかがお過ごしでしたでしょうか。昨年2020年(令和2年)3月14日の第21回山のトイレフォーラムは中止せざるを得ず、ようやく今日20周年記念である第22回フォーラムを開催する運びとなりました。新型コロナ感染については、まだまだ気を抜けませんが一瞬も早く終息して欲しいと願っています。

この20年を振り返って一言を紡げば、よく20年も続いたなあーという驚きと感慨でもあります。これは、初代の横須賀邦子元代表、2代目の岩村邦彦前代表による牽引のもと力を合わせてきた運営委員、力と支援をいただいた多くの会員の皆さまや一般の皆さまからの賜物だと思っています。ここに深い感謝の気持ちと共に厚くお礼を申し上げます。本当に、ありがとうございました。

2000年(平成12年)6月に、大雪山トムラウシ山南沼野営指定地や十勝連峰美瑛富士避難小屋周辺のトイレ汚染があまりにも酷いため何とかしたいと当会が発足した際、数年(長くても10年)も活動すれば、問題は解決して会も解散できるだろうと考えていたと昔話を聞きます。しかし、私達は、今は知ってしまったのです。山のトイレ問題は、山岳トイレや携帯トイレブースを作って終わりではないと。適正な管理を担う仕組みを構築し、機能を発揮し続けるお手伝いをするという「時」と共に歩む役割が欠かせないことだということ。

当会の20年の歩みと資料集は、ホームページ(URL <http://www.yamatoilet.jp>)か「山のトイレを考える会」で検索)に掲載され、電子データ(pdf形式)で一般の皆さまにも公開されています。そこには日本中の山岳環境問題の歴史が綴られています。機会がありましたらぜひ仲俣善雄事務局長が心血を注いだ労作をご覧ください。

昨年のフォーラムでご報告する予定でした2つの成果；美瑛富士避難小屋周辺のトイレ問題改善活動(道内の山岳団体等で構成した美瑛富士トイレ管理連絡会と環境省と美瑛町との協働活動)とトムラウシ山南沼野営指定地のトイレ問題改善活動(北海道と環境省と森林管理署と新得町と山岳団体等との協働活動)は、私達が模索し目指した方向でした。その成果を参考にして、今年度から新たに大雪山裏旭野営指定地への携帯トイレブース設置に向けた活動を開始したいと考えています。賛同いただける多様な山岳関係団体への声掛けと共に、北海道(上川総合振興局)や環境省(大雪山国立公園管理事務所)への協働の相談・要請を行う予定です。

皆さまには、これからも変わらずご支援ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

そして本日のフォーラムで講演をいただく(同)北海道山岳整備、大雪山・山守隊 岡崎哲三代表の「山岳管理における民間団体のかかわり方」は、さらに今後の方向性を示すお話だと伺っています。皆さまと傾聴できることが喜びです。では一緒に！

結語；～山岳環境問題改善の活動は官民協働の仕組み構築こそが未来への道である～